

郷土研通信

発行：てしかが郷土研究会（Teshikaga Regional Studies Association）

〒088-3211

北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10（松橋方） 文章責任：松橋 秀和

URL: <https://www.teshi-ka-ga.org/>

ハンゴウソウ
アイヌ語：ペカンペクトリ（屈斜路）
この花が咲くと沼ではヒシの実が
実る。
写真：『阿寒・摩周の植物』から

近況報告

『北海道 森と湖の日々』

水越武著

水越武さんの著書（写真とエッセイ）が刊行されました。

阿寒摩周国立公園周辺の四季で変化する風景やエッセイがちりばめられていて、読後に改めて私たちは宝物のような素晴らしい地域の中で生かされていることを思い知ることできます。

蔵書の一つにされ、度々お読みなされると、一日の幸せな時間の流れ感を感じることができそうです。

『北海道 森と湖の日々』（水越武著）は、館書店ほかに絶賛販売中です。



ふるさと歴史館の

補助業務行っています

今は、「種市佐改資料」の新聞スクラップの「阿寒国立生公園」62冊をデジタル化を試行錯誤しながら作業を進めています。完成形ができたなら逐次他のスクラップにも範囲を広げていきます。

作業中に「郷土研究会」に

弟子屈の街歩きが

行われました

「くしろとつておきプロジェクト2026 釧路川 かわまちジャンボリー」の行事の一環で「釧路川かわまちジャンボリー」弟子屈「三川床」が8月18日・19日・22日に行われました。

18日夕方には、弟子屈の



関する史料を発見しました。

北海道新聞社の許諾、弟子屈町教育委員会社会教育課ふるさと歴史館の承認を

勉強会

8月の勉強会は急遽予定を変更して、8月18日に行った「弟子屈市街を歩く」の概要説明と座談会になりました。

行事当日の時間帯が夕方、日没時間の関係から当会で想定していた道順は変わっていますが、想定していた道順で街の歴史をお話しました。

「まぼろしの鉄道「釧美線」の路線」や熊牛外四ヶ村戸長役場から弟子屈外一村戸

中心市街を歩いて、当会の有志が町の歴史について解説行いました。

現地を歩いて街の移り変わりなどを確認することの醍醐味を感じました。

当会でも実施して、弟子屈の街の成り立ち再確認したいです。

情報提供

詩の朗読会

とき…9月12日（土）

14:00～16:00ころ

ところ…オートキャンプ&レストラン

摩周の森

主催…木村和史

次回の例会

令和八年九月二五日（水）

一八〇〇

弟子屈町公民館

勉強会

公民館主催の「ふるさと講座」を勉強会にします。

演題

原野の詩人 更科源藏

講師 松橋秀和

むかしむかし写真館

No. 367

種市佐改 旅と観光のコレクション

「新聞スクラップ」からその1

小林 俊夫

郷土研究会が発足

弟子屈町の「郷土研究会」の初発足は、永田洋平氏が弟子屈町文化協会の設立準備発起人を務め、昭和25年4月20日の発足と同時に協会加盟団体として「弟子屈郷土研究会」を立ち上げ、永田洋平氏一人会員として登録し、動植物や郷土の歴史などの研究活動に取り組んでこられたことに始まります。

その後、昭和50年に「矢沢遺跡」の緊急発掘が計画され、永田洋平氏の長男で学芸員（考古学）の資格を持ち、当時、東京都葛飾区青戸の葛西城跡の発掘に携わっていた永田等氏に「矢沢遺跡」発掘現場を担当してもらうため帰郷してもらうなどして、翌年（昭和51年）8月から本格的な発掘準備に備えました。

そんな中、永田等氏から「これを機に従来の『郷土研究会』を引き継ぐ形で再結成

し、発掘作業員の確保や郷土の歴史研究活動等の推進を図ってはどうか」との提案があり、早速初代会長の永田洋平氏の了解を得た上で新たな賛同者を募った結果、会員15名の構成による「弟子屈郷土研究会」が再スタートしたのでした。

手元にある昭和51年度定例総会（昭和52年1月19日開催）の議案書を見ると、次のような役員と会員の構成になっています。

▽顧問 更科忠（酪農）・永田洋平（商店）▽会 永田等（町教委職員）▽副会長 浄土洋（飲食店）▽事務局 岩谷史（弟子屈中教諭）▽事務局次長 吉田武（商工会職員）▽会計 藤本幸雄（酪農）▽幹事兼事務局員 佐藤征見（木彫工芸）▽風祭保夫（商店）▽会員 右近一雄（商店）・辻谷厚志（飲食店）・吹田敏治（役場職員）・藤本亨（弟子屈中教諭）・山本善久（弟子屈高教諭）・加藤博司（役場職員）・小林俊夫（町教委職員）・瀬野清美（商店）・佐藤和子・松橋三夫（弟子屈郵便局職員）・渡辺弘・岡本とみゑ（弟子屈小教諭）・明見

敬造（弟子屈中教諭）・佐藤正幸（弟子屈中教諭）・中村俊文（書店）・森俊郎（弟子屈高教諭）
総勢 25名
（敬称略）

その時の様子が北海道新聞道東版に取り上げられています。記事では、当時の会員たちの意気込みの臨場感が感じられるので、少々長くなりませんが全文を左記に紹介します。

郷土研究会が発足 弟子屈
会報や研究発表会

意欲的な活動プラン

【弟子屈】羅臼、中標津について釧路管内の町村では三番目の郷土研究会がこのほど弟子屈で発足した。歴史、自然に関心を持つ人たちの集まりで、毎月会報を発行するほか、研究発表や講習会など活発に開いてゆくことになった。

開発の進展とそれに伴う環境破壊の中にあつて郷土を冷静に見つめ直そうというこの研究会は、二月から二度の準備会を開き、十日夜には町公民館に有志十人が集まって発足総会を開いた。会員は今のところ十五人だが、これから町内に呼びかけて増やしてゆく。

今年の活動計画、予算を決めて役員を選んだが、学校の先生、農村青年、市街の商店、喫茶店経営者らと比較的若い人たちが多く、それだけに活動目標も発起人が用意していた原案より膨らんでなかなか意欲的なものとなった。活動の分野は考古、歴史、民俗、自然などにまたがり、「二年間千二百円の会費で賄いきれるだろうか」と心配するほどだが、毎月例会を開いて会報を発行、お互いの研究を紹介、交流し合い、秋には研究発表会を開いたうえ、その足跡を郷土叢（そう）書の形にまとめることになった。このほか、専門家を招いての講演会、会員の研修を図るため古文書など資料の扱いや標本の作り方の講習会を開いたり、遺跡見学を行うなど、自然や文化財に恵まれた町だけに活動にはこと欠かないようだ。事務局は下鎚別教員住宅、岩谷さん方に置き、今月の例会は三十一日午後六時から町公民館で開くことになった。

役員次の通り。
▽会長 永田均▽副会長 浄土洋▽事務局長 岩谷史▽同次長 吉田武▽会計 藤本幸雄▽幹事 佐藤征見、右近和雄

（北海道新聞 昭和51年3月15日夕刊道東版・北海道新聞社許諾済）
（※資料一ふるさと歴史館・「種市佐改度と観光のコレクション」）

―新聞スクラップ「阿寒国立公園」8 50ページ史料No.119―



ウェブ許諾：北海道新聞社許諾 D2608-2702-00031725

資料提供：弟子屈町教育委員会社会教育課ふるさと歴史館

種市佐改氏は、釧路鉄道管理局で観光関係に携わり、退職後釧路観光連盟の事務局長を勉められて勇退後、摩周観光文化センター観光資料室長として赴任されています。後に弟子屈町立図書館初代館長を勤められています。

氏は阿寒国立公園（当時）や道東の歴史や自然環境等の調べため古い新聞記事を収集し、その情報に手がかりを求め、そこから細部を探る手法で阿寒（摩周）国立公園のバイブルといわれている『阿寒国立公園物語』・『阿寒国立公園の三恩人』などを上梓されています。

その基礎資料となった「新聞スクラップ」が2500冊ほどあります。